



# 日進北小だより

平成31年1月8日

第9号

TEL 048-663-1842

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp>

学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する

## 「そなえよつねに」

校長 宇佐見 弘幸

新年、あけましておめでとうございます。今年は亥年です。「亥（いのしし）」には、諸説がありますが、「猪突猛進」という慣用句もあるように、目標に向かって猛烈な勢いで突き進む力強さがあるといわれています。今年一年、日進北小学校の子どもたちが、力強く育ってほしいと願い、保護者、地域の皆様にとりましても素晴らしい年となりますように心よりお祈り申し上げます。

さて最近、平成最後という言葉をよく耳にするようになりました。4月1日には新元号が発表されるという報道もされています。平成という時代は、明治時代から始まる近代の中で、唯一戦争がなかった平和な時代です。紛争絶えない世界各地の子どもたちのことを考えるとなんと素晴らしいことなのだろうと感じます。しかし、戦争はなかったもののたくさんの災害に見舞われた時代でした。

平成2年から始まった、雲仙普賢岳の噴火。翌年の噴火は最も大きな被害をもたらし、火砕流がふもとの町を飲み込みました。数年後に現地を訪れた私は、火砕流が家の中に流れ込み、道路が家の屋根の高さにまでなっている様子に言葉を失いました。平成7年に発生したのが、阪神淡路大震災でした。地震発生を知ったのは、出勤途中のラジオでした。この時点では、災害の規模を実感できませんでした。帰宅してテレビの映像を見るとあまりの惨状に我が目を疑いました。当時私は、旧浦和市の小学校で学級担任をしていました。私の学級に従姉妹が在籍しているということで、被災地からのお子さんを受け入れました。この地震は、一瞬で日常生活のすべてを奪ったそうです。まだ寝ている時間だったので、寝室のある2階から下に降りようとする、家の中の階段がなくなっていたそうです。とてもとても怖い経験をしたそうです。平成23年には東日本大震災が発生しました。亡くなった方、行方不明の方は合わせて1万8千人超、第二次世界大戦後最悪の自然災害とも呼ばれています。この時の地震の揺れはさいたま市においてもただ事ではないことを直感しました。勤務校では避難所が開設され、私も一晩、学校で開設のお手伝いをしました。平成28年の熊本地震、昨年のお阪府北部地震は記憶に新しいところです。

1年の始まりを祝う今月に話題にすべきことではなかったかもしれませんが、昨年の世相を1字で表す「今年の漢字」が「災」であったように、災害は身近なところにあり、自分の住む地域に災害は発生しないという思い込みは払拭しなければいけません。防災・減災に求められているものは、「自助・共助・公助」です。過去の災害は、「共助」や「公助」には限界があることを私たちに教えてくれました。

「そなえよつねに」これは、私が永年続けてきたボーイスカウト活動のモットーです。「いつ何時、いかなる場所で、いかなる場合でも善処できるように、常々準備を怠ることなかれ」ということを表します。「災い転じて福となす」ということわざもあります。1年の始まりである今月、ご家族皆さんで、「自助」について話題にし、日頃からの小さな備えを積み重ねてみてはいかがでしょうか。